

インターバンクの声（2015 年 9 月 8 日）

注目された連休明けの上海株式市場は 2.52% 安の 3,060.42 で取引を終了。

昨年末時点の、2015 年の世界経済見通しを振り返ると、米国経済の回復継続、円安基調定着、日米株式堅調、原油安などポジティブな材料が取り上げられていた一方、懸念材料として中国経済の成長鈍化、欧州経済、ギリシャ問題、さらにロシア経済の先行き懸念などが挙げられていました。こうして見ると、8/12 の人民元切下げを契機とした世界同時株安の震度の大きさはともかく、ある程度は予想されていたことが起こったといえるのかもしれません。

先週末、トルコ・アンカラでの G20 では中国に対する構造改革や透明性への注文が相次いだほか、米国の利上げに対しても慎重な姿勢が望まれるとの声が多くきかれました。市場の動揺は常に付き物、どのようなタイミングでどれほどの揺れが起こるのか、さらにそうした場面での冷静な判断が求められるのは金融市場に限ったことではありません。今回の問題も中国が財政政策をいつ打ち出すのか、習近平国家主席が訪米を終えた 10 月の「五中全会」まで待つのか、それ以前に打ち出すのか？ 昨晚も中国で株価対策の一環としてサーキット・ブレーカーの検討や配当金にかかる税金免除などの報道が聞かれていました。昨日の外貨準備減少も一部参加者の予想ほどの減少に至らなかったことから大幅な人民元安に向うような動きは避けられました。

米投資新聞では年末までの NY 株は 10% 以上上昇するとの記事が見られたほか、昨晚の欧州株も上海株の下落に反応しない動きとなっていました。過度な楽観は禁物な一方で、過度な悲観もそろそろ終止符を打つべき段階にきているのかもしれないだけに、冷静な判断が求められるのではないのでしょうか？

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複製もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。